

新着案内



『NO.6再会』 3		
あさの あつこ/著	講談社	T/アア
『透明なぼくらのレモンとキス』		
神戸 遙真/著	偕成社	T/コハ
『Bグループの少年』 10		
櫻井 春輝/著	アルファポリス	T/サハ
『スマホを持たない君へ』		
清水 晴木/著	PHP研究所	T/シハ
『つくろうひと』		
村山 早紀/著	ポプラ社	T/ムサ
『15歳から身につけたい「あえてひとり」を選べる力』		
水野 孝哉/著	KADOKAWA	T159/ミタ
『管理栄養士・栄養士になるには』		
平井 明日菜/著	ベリかん社	T366/ヒア
『学校を休んだ日は本をひらいて』		
清 蘭子/著	主婦と生活社	T371/キマ
『高校受験で成功する!中学生のケアレスミス防止』		
石田 勝紀/監修	メイツユニバーサルコンテンツ	T375/コウ
『大学図鑑!』 2027		
オバタ カズユキ/監	ダイヤモンド社	T376/タイ
『されど罪人は竜と踊る』 0.6		
浅井 ラボ/著	小学館	TB/アラ
『ソードアート・オンラインオルタナティブ ギャンブラーズ・オーナー』		
周藤 蓮/著	KADOKAWA	TB/スレ



ティーンズのココロ通信

令和8年8月1日 発行

Eメール: info@lib-yama.jp

HP: https://www.lib-yama.jp

山口市立中央図書館

272 号

〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL: 083-901-1040

FAX: 083-901-1144



平和



夏休み真っ盛り!!
今年の夏も暑いです。

今月のテーマは「平和」。
暑い暑いと言いながらも、ご飯を食べて、寝て、勉強して、
ごく当たり前の生活ができることはとてもありがたいことです。
「平和」について、考えてみましょう。



●『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ／著 三野 博司／訳 論創社 TF／サア
家ほどの大きさの小さな星に住んでいた王子さま。大好きなはずのバラと喧嘩をしてしまい、星を飛び出しました。星々を巡った王子さまと、砂漠に不時着した飛行士が地球で出会うことで物語が始まります。王子さまは飛行士にヒツジの絵を描くようにお願いし、自分は砂漠にたどりつくまでの出来事を話しはじめました。王子さまは道中で出会ったキツネから大切なことを教わります。自分だったらどう向き合うか是非考えてみてください。(S.E)

●『なぜ世界には戦争があるんだろう。どうして人はあらそうの?』

ミリアム ルヴォー ダロンヌ／文 岩崎書店 T100／シユ
『平和より戦争をえらぶほど、分別のない人間がどこにいましょうか。』紀元前400年頃の歴史家ヘロドトスの言葉です。紀元前から現在まで戦争がなかった時代はありません。先ほどの言葉のように戦争が好きなんなんていません。ではなぜ戦争はなくならないのでしょうか。この問いに対して、この本では哲学的にアプローチして答えを見つけようと試みています。いまでも世界中のあちこちで戦争が起こっています。終戦から81年。自分事として考えるのはなかなか難しいかもしれませんが、戦争や平和について考えるきっかけの一歩になればと思います。(M.K)

●『ムクウェゲ医師、平和への闘い「女性にとって世界最悪の場所」と私たち』

立山 芽以子・華井 和代・八木 亜紀子／著 岩波書店 T367／ムク
「女性にとって世界最悪の場所」ともよばれるコンゴ東部。ムクウェゲ医師はこの紛争の絶えない場所に病院を建て、残虐な性暴力で心身に傷を負った人々を治療し続けています。「戦争のない世界は絶対につくることができます。一緒に夢を見て、一緒に行動をしましょう」ムクウェゲ医師はそう語ります。紛争の原因になっている鉱物資源はスマートフォンなどの電子機器にも使われています。コンゴで起きている悲劇を関係ないと切り捨てず、私たちにもできることはないか考え続けなければならないと教えてくれる一冊です。(N.A)

●『世界のシェー!! フジオプロ公認』

平沼 正弘／著 100%ORANGE／装画・挿画 理論社 T748／ヒマ
漫画『おそ松くん』に出てくる「シェー!!」というポーズをご存じでしょうか。おどけていて楽しいポーズなのですが、こちらはそれを世界50カ国の人々にやってもらった写真集です。それ以上でもそれ以下でもなく、本当にそれだけ。なのに、写っている皆さんが笑顔でポーズをとっているのを見ると、こちらまで楽しくなってきました。言葉が通じなくてもみんなで笑顔になることができるのだな、と幸せな気持ちになれる1冊です。(S.E)

●『海は忘れない』

村上 しいこ／著 小学館 T／ムシ
令和の女子高生波留はある日、自転車で事故に遭い、昭和33年にタイムスリップしてしまう。やがて自分が「^{はる}浜口晴子」という昭和33年の女子高生としてタイムスリップをしていることが次第に分かってくる。波留は晴子としてその時代で友情や恋愛といった普通の若者の青春を過ごす。もはや戦後ではないと言われた昭和30年代前半。しかし、戦争に行った親の世代や、終戦時に若者だった人たちの体験談を聞いたたびに、戦争の傷跡は生々しく、あちこちに残っていることを実感する波留。過ちを繰り返さないためにできることは何か。波留の中で何かが変わっていく…。(M.K)

●『灰とダイヤモンド』

東 曜太郎／作 中島 花野／絵 岩崎書店 T／ヒヨ
敗戦後2度目の夏、戦争によって豹変してしまった父から逃げるように家を出た^{まもる}衛は東京のヤミ市にたどり着きます。そこで大きな夢を持つ^{はちろう}八郎という青年や彼を慕う少年少女たちと出会うことで、衛は新たな居場所を見つけていきますが……。戦争によって多くのものを失ったと同時に、これまで自分たちも別の誰かを犠牲にしながら生きてきたのだと葛藤する衛の姿に考えさせられます。戦後の混乱の中を懸命に生きた人々に思いを馳せながら読んでみてください。(N.A)